

## 令和元年度 授業改善推進プラン〈美術科〉

### ● 美術科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- ▶ 全員の作品を掲示することにより、お互いに認め合い、高め合いながら美術に対する興味関心を高めることができた。上級学年は作品につける解説文を考えさせることで、深く考える機会が増加した。
- ▶ 毎時間、制作カードに振り返りを記入させ、点検を行う事により、生徒の気づきやつまずきにフィードバックができるようになった。
- ▶ 書画カメラを用いてアイデアの発表会を行うことで、発想力に広がりを見せた。お互いを認め合う様子を見ることができた。今年度、美術室のPC環境が整備されることが待ち遠しい。
- ▶ 苦手意識を軽減するため、美術における基礎基本（ものを観る力・色彩の基礎・着色の基本等）をスモールステップによる丁寧な指導を行った結果「できる」実感を持つ生徒が増えた。

### ● 美術科における分析と課題

#### 【美術への関心・意欲・態度】

2年生の授業では美術に対して苦手意識を持つ生徒が少なからずおり、自信と意欲が十分ではなく、自分の作品に対する自己評価が低い。その一部生徒が騒いで授業の妨害になることも時々ある。彼らももっと自信を持って、主体的に活動に取り組めるよう、基本的な技術の習得を徹底させたい。「上手い絵」を描くこと以前に、「表現したい心の中のイメージ」を持つことが大切だということを伝えていく。

#### 【発想や構想の能力】

形のないものを想像し、イメージを持つことに苦手意識を持つ生徒が多かったが、自ら表現のヒントを、美術室文庫や自宅のPCでイメージに合った画像を探せる生徒が増えてきた。また書画カメラを用いた発表会を行うことで他者の想いや考え方を知り、刺激を受け、発想の幅を広げられるようになってきている。美術室のPC環境が整えられ、教室で欲しいイメージ画像を検索できるようにしたい。

#### 【創造的な技能】

スキルに対する自信が持てない生徒が多かった。用具の使い方、表現方法を実際にやって見せる等、より具体的で丁寧な指導を行い、スキルを身につけて自分で満足できる作品作りができる生徒を増やしたい。

#### 【鑑賞の能力】

関心を持って鑑賞に取り組む生徒が多く見られる。東京という好立地に住んでいることを活かし、夏休みに作成した美術館レポートを掲示し、全員でその体験を共有した。美術館へ足を運ぶ生徒が増加している。

### ● 美術科における授業改善のための具体的な取り組み

教室環境の整備	継続	授業の流れが一目で理解できるように、板書や教卓、作品提出場所を工夫する。昨年度の見本作品を教室内や廊下に掲示する。
授業規律の確立	継続	持ち物の準備・チャイム着席・挨拶・話を聞く態度の指導の徹底。
技能の基礎基本	継続	色彩・レタリング・ポスターカラーの使い方といった美術における基礎基本を丁寧に指導し、習得させる。
物を観る力の育成	継続	デッサンを通して、思い込みを捨て、物をしっかりと観る事を学ばせる。
学習の整理	継続	学んだことが一目で分かるようノートにまとめられたかを評価する。
発想力の育成	継続	他の発想に触れることで、新たな発想を生み出す力を身につけさせる。
活動の振り返り	継続	毎授業、活動の振り返りを制作カードに記入し、評価印を押して返却する。
作品の全員展示	継続	全員の作品を掲示することで、承認欲求を満たし自己肯定感を高める。